

熊本労災病院のホームページを訪れていただき感謝申し上げます。

新年度になりました。今年も多く的人事異動があり、いつもより少し遅くなった桜のなか、フレッシュな新入職員や、職場内昇任・異動職員合わせて100名近くに辞令をお渡ししました。医師は常勤だけで80人を越える所帯となり、いろいろな診療領域で機能の向上や医療安全体制の確保が図られることとなります。

ここで医師の体制変化について主なものを紹介いたしますが、詳細は、HPのお知らせ「平成31年度新体制のご紹介」をご参照下さい。

まず、がん診療に関するものです。本院は国に指定された、地域におけるがん診療拠点病院ですが、今年は厚生労働省によるその指定更新年になります。この機会に、がんの化学療法を担う「腫瘍内科」、緩和ケアを担う「緩和ケア科」を新設し、それぞれ、すでに経験をたくさん積んでいる専従医師をその担当部長としました。当院では高齢者の進行がんが多いこともあり、消化器領域のがんの早期発見を目指して、大学医局のご配慮も頂き、消化器内科担当医師の増員を行いました。また、その手術を担当する消化器外科の医師も、これまでの富安部長が交代とはなりましたが、新進気鋭の中原医師が新たに着任し、また若い医師の増員も図られました。これまで非常勤であった精神科・心療内科に大内医師を常勤で迎え、リエゾン業務とあって、他の科でみられる精神的問題を有する入院患者さんの相談に応じていただくほか、同様な外来診療を担当してもらい、がんの患者さんの精神的なケアなども含め、これまでよりきめの細かい診療を担います。

がん領域以外では、心臓血管外科専従医師が2名に増え、時間外も含めた手術への対応や手術前後のケアを複数で担える体制が整います。また眼科も複数体制となり、これまで以上の手術に応じることができるようになります。

これらの医師派遣に関しては、熊本大学や産業医科大学のご支援を受けています。各医局、そして大学病院の院長はじめ関係の皆様は深く感謝したいと思います。また、今年から、「熊本県地域医療連携ネットワーク」という仕組みが始動し、その中で、熊大病院、医師会、熊本県、そして私たち地域の病院がタッグを組んで熊本県の地域医療体制を整えていこうという動きが始まります。当院は、自院の診療機能の維持向上に努めるのはもちろん、今後は、基幹病院として地域の医療機関に医師を派遣するような役割も担うこととなります。こ

れまで以上に、大学病院や行政、そして各医療機関との連携を深めていきます。

ハード面では、正面玄関ホールの奥に、「入退院支援センター」を設置いたします。これまでそこにありました患者図書室「とまり木」は、玄関入って左側に移設しました。入退院支援センターは、例えば、手術を伴う入院が決まった場合、これまで各外来や時に入院後に行っていたような術前の種々の説明などを、事務的なことも含めてこの部門で一元的に行うなど、患者さんの利便性を高めることを目的に設置されるものです。すでに多くの病院で作られている仕組みであり、当院も遅ればせながら整備することとなりました。まだ4ブースの用意にとどまり、予定入院患者さんすべてを対象に支援を行う、ということをしるすに始める訳にはいかないのですが、今後拡充していく予定です。ご意見、ご希望をお寄せいただければと思います。

この文章がHPに載る頃には、新たな元号が決まっていると思います。平成31年度は、たった1ヶ月ですが、記憶に残る大事な1ヶ月でもありましょう。医療者としては、日常の仕事を粛々とこなし、徹底的に患者さんに寄り添い頼られる熊本労災病院であり続けたいと思っております。新しい年度、さらにご期待にそえるように職員一同努力して参りますので、どうぞよろしくお願いたします。